薔ょ恍ぅ生ぃぁ。 惚っ命ょ 花は煙りて影仄に はな けぶ かげほの 心言 の 色が に の光榮と喜悦 かなる草の野邊 故⇒ の露幕 つ 郷と ۷ るように む 憧憬れ 狩の を 0

は

Ũ

ゃ

木<sup>c</sup> 樺<sup>b</sup> 燦<sup>e</sup> 野<sup>u</sup> 夏<sup>e</sup> 梢<sup>a</sup> の 花<sup>a</sup> の 化の息吹に風ので、風といる。 いぶき かぜい 関生の逍遥や う香ゥ を

> 沈黙にふるふ 星ほ の 灯がのよ

白まがね

闇かる 深か

氷ら 柱ら

に映は のする

いゆる 紅

郷なしみ

あは

はき秋の亡

夜ょの

黄<sup>z</sup> 金<sup>n</sup>

のさやき銀

٧V ろ

聖き黙禱の 層の魂ゆるるの幻影に の律動きて よふ 少火明りよ

ひゞく曙の聲 に歌ふ若鳥の 緑のほの薫る く光りさゆらぎつ

が 林<sup>はやし</sup>

灯で

ょ

あは の 星<sup>ほ</sup> 0)

れ高たか 同鳴る靈と智の

0)

諮調豊けき魂の琴 しらべゆた たま こと